

水稲新品種「げんきまる」の復元田等における栽培法（栽植密度）

古川農業試験場

1 取り上げた理由

平成21年度に本県水稲奨励品種として採用された中生のうるち品種「げんきまる」（系統名「東北189号」、普及に移す技術第85号）は、耐倒伏性及び収量性に優れ、復元田等の地力の高いほ場条件下で多収が見込まれ、低コスト栽培可能な品種として期待されている。そこで、「げんきまる」を安定生産するための栽培法（栽植密度）についてその目安が得られたので、参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 栽植密度を18.2株/㎡で栽培することで収量が高く、倒伏程度は低い（図1、表1）。
- 2) 粒厚別の粒重比では1.7mmから増加し、2.0mmから2.1mmが最も高い（図2）。1.7mmから1.9mm間で約40kg/10aの中米が発生する（表1、図3）。

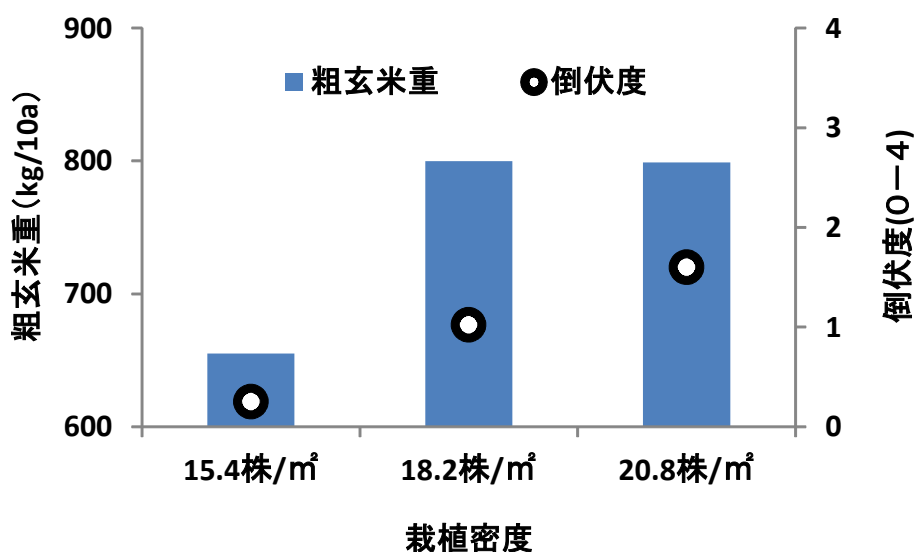


図1 現地ほ場における栽植密度と収量（粗玄米重）
 注1) 復元田等7ほ場の平均（平成21年，平成22年）
 注2) 基肥（0kgまたは2kg）施用，追肥なし
 注3) 倒伏度：0（無倒伏）～4（完全倒伏）

3 利活用の留意点

- 1) 「げんきまる」の特性については、普及に移す技術第85号を参照のこと。
- 2) 復元田等の地力の高いほ場条件下で高い収量が得られるが、低いほ場条件下では収量が劣る。
- 3) 耐倒伏性は”強”であるが、気象状況等により倒伏する場合がある。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新規需要米栽培・加工適性試験 平成21年～22年度

2) 参考データ

表1 現地ほ場における収量構成要素および品質

| 栽植密度 (株/㎡) | 出穂25日後 | | | 収量構成要素 | | | | 倒伏度 |
|---------------|------------|------------|------------|-------------|-------------|------------------|-----------------|-----|
| | 稈長 (cm) | 穂長 (cm) | 葉色 (GM) | 穂数 (本/㎡) | 1穂粒数 (粒) | ㎡当たり粒数 (千粒/㎡) | 粗玄米 (kg/10a) | |
| 15.4 | 94.8 | 21.1 | 31.9 | 295 | 106 | 31.3 | 655 | 0.3 |
| 18.2 | 93.7 | 21.0 | 33.1 | 378 | 112 | 42.1 | 800 | 1.0 |
| 20.8 | 94.4 | 21.2 | 35.1 | 400 | 106 | 42.6 | 799 | 1.6 |

| 栽植密度 (株/㎡) | 登熟歩合(%) | | 千粒重(g) | | 精玄米重 (kg/10a) | | 品質分析(1.9mm以上) | | | |
|---------------|----------------|------|----------------|------|------------------|-----|---------------|-------------|--------------|------|
| | (1.7mm, 1.9mm) | | (1.7mm, 1.9mm) | | (1.7mm, 1.9mm) | | 整粒比 (%) | 胴割粒比 (%) | タンパク質 (%) | 味度値 |
| 15.4 | 88.1 | 81.7 | 23.5 | 24.0 | 644 | 607 | 75.9 | 0.8 | 6.8 | 69.2 |
| 18.2 | 81.6 | 75.6 | 23.1 | 23.5 | 754 | 714 | 74.7 | 0.3 | 7.2 | 68.0 |
| 20.8 | 81.1 | 75.6 | 23.1 | 23.6 | 792 | 752 | 73.3 | 0.5 | 7.4 | 65.3 |

注1) 復元田等7ほ場の平均 (平成21年, 平成22年)

注2) 基肥 (0kgまたは2kg) 施用, 追肥なし

注3) 倒伏度: 0 (無倒伏) ~4 (完全倒伏)

注4) 整粒歩合は穀粒判別器 (S社製RGQI10A), 玄米タンパク含有率は近赤外米食味品質分析計 (N社製6500), 味度値は味度メーター (T社MA90型) で測定。

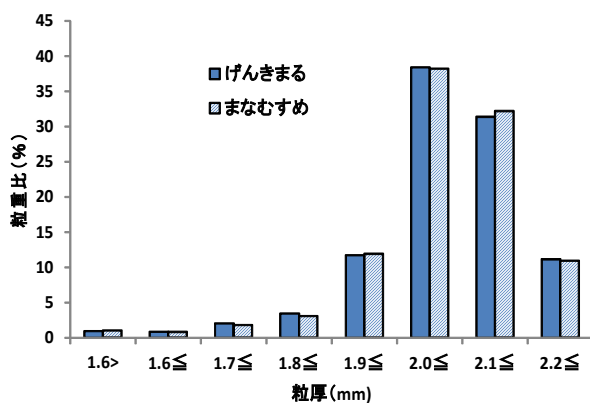


図2 現地ほ場における粒厚別の粒重比

注) 復元田等7ほ場の7平均

(平成21年, 平成22年)

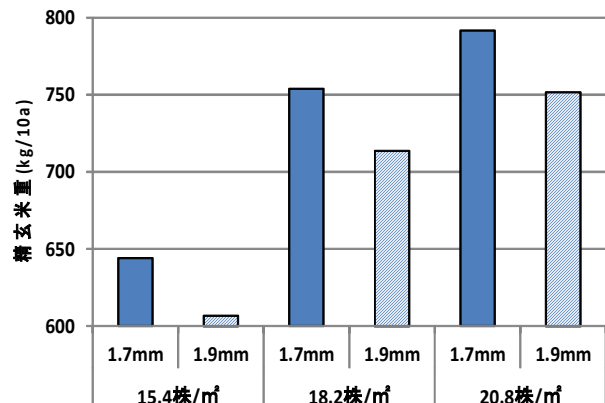


図3 現地ほ場における栽植密度別の精玄米重

注) 復元田等7ほ場の7平均

(平成21年, 平成22年)

3) 発表論文等 なし